

ことば力養成講座

残暑がやっと立ち去りそろだが、シヨウウインドーはすでに「秋冬物」一色だ。携帯電話は「秋冬モチ」...

秋冬物

織物同業組合が1993年(昭和68)年に発行した「秋冬向懸賞織物図集」...

「春夏秋冬」の「春夏」「秋冬」も、ふわっと軽い素材が主流。秋冬でも夏物とコーディネートする「普回し」が流行している。

05年からパリコレに出品する古田泰子さんによれば、最近ではオールシーズン、冬の「ウォームヒズ」を提

唱した。暑ければ薄着、寒ければ重ね着を励行する。秋冬商戦でも環境志向が売り物だ。

四季折々の表情があつてこそ「秋冬物」の言は引き立つ。気候変動で日本の季節感が失われなことを祈るばかりだ。

英語落語 大学生が高座

授業の成果、ノリノリ

大阪樟蔭女子大



大阪樟蔭女子大(東大)の「英語落語」の講義をスター

大阪樟蔭女子大(東大)は今年度から「英語落語」の講義をスター。受講生が授業の成果を披露し、観客約70人を喜ばせた。

24日の発表会に出演したのは5人。法政系高生に上り、古里落語の「時と金の」の一部を小真。非常勤講師として学話などを、左右に人物を生を指導してきた桂かい。

語り分けながら、ノリノリの英語で見た21写手本を見た。

「英語落語」は、学芸学部英米文学科の専門講義。前期のみの授業で、初年度は3回生26人が学んだ。

まず、英語の台本を自然な大阪弁の話言葉に訳し、調子を保つたまま英語に戻して語る。実技指導は、理科教室の教卓の上に座布団を敷いた「高座」で行った。

出演した3回生の岡田真規子さん(20)は「ちょっと聞かぬアカン授業やけど面白かった。他の授業では出てこない日常会話で、一型を覚えてバリバリシヨンをつける学習法は語学にうってつけ。日本文化を海外発信する意味もある」と英語落語の意義を説く。

桂かい枝さんは「最初は何もなかったが、みんな頑張った。自分を表現する喜びも感じてもらえたと思う」と話していた。(高橋真紀子)

近藤准教授の

紙上特別講義

国際協力とボランティア

紛争地に普通の市民が出かけ、寄り添うことが人々の支えになるのです。

岡山大准教授 近藤 麻理

おさらい 国際ボランティアをする際、専門的な知識や技術があるのは当たり前として、現地の人や他のスタッフと調和できるコミュニケーション能力があることが大切だ。異文化の中で「他人に助けられる自分」と向き合うような経験が、こうした資質を磨く。

学を学びました。修士時には誰も生きていません。30代のとき米国で4年暮らして、タイが恋しくなりました。タイが恋しくなると、同じ10代でも、外国人を相手に水商売を必要とされている少女たちとも知り合いました。彼女たちはエイズウイルス(HIV)やほかの病気になる前に、今で

もコミュニケーション能力がものをいいます。診療所は、難民生活の中で仕事をし、疲弊困憊しています。そのうえ、治療の過程で患者から悲惨な話を聞き、心の内を打ち明けることもできません。

身が紛争で家や身内を失った私たちに悪知恵もありません。診療所は、難民生活の中で仕事をし、疲弊困憊しています。そのうえ、治療の過程で患者から悲惨な話を聞き、心の内を打ち明けることもできません。

本から行った私たちに悪知恵もありません。診療所は、難民生活の中で仕事をし、疲弊困憊しています。そのうえ、治療の過程で患者から悲惨な話を聞き、心の内を打ち明けることもできません。

ともあるのです。診療所を訪れる時は、いい紅茶を持参して、ゆつたりと会話するよ心がけました。

私が20代のころ、若者の間で海外を貧乏旅行するのがはやり始め、私もアジアの国を旅しました。自分のことだけ精いっぱい、国際協力など考えたこともありませんでした。

バンコクに滞在中、貧しい地方から出てきてる学生(ソムナム)を売った少女たちと出会い、私にタイ語を教えてくれ、彼女たちなりの方法で助けられました。前回は「援助されなければ生きていけない自分」と向き合える経験が必要」と話しました。まさにその通りな経験でした。

タイ語を話せるようになるまで、同じ10代でも、外国人を相手に水商売を必要とされている少女たちとも知り合いました。彼女たちはエイズウイルス(HIV)やほかの病気になる前に、今で

は誰も生きていません。30代のとき米国で4年暮らして、タイが恋しくなりました。タイが恋しくなると、同じ10代でも、外国人を相手に水商売を必要とされている少女たちとも知り合いました。彼女たちはエイズウイルス(HIV)やほかの病気になる前に、今で

は誰も生きていません。30代のとき米国で4年暮らして、タイが恋しくなりました。タイが恋しくなると、同じ10代でも、外国人を相手に水商売を必要とされている少女たちとも知り合いました。彼女たちはエイズウイルス(HIV)やほかの病気になる前に、今で

は誰も生きていません。30代のとき米国で4年暮らして、タイが恋しくなりました。タイが恋しくなると、同じ10代でも、外国人を相手に水商売を必要とされている少女たちとも知り合いました。彼女たちはエイズウイルス(HIV)やほかの病気になる前に、今で

は誰も生きていません。30代のとき米国で4年暮らして、タイが恋しくなりました。タイが恋しくなると、同じ10代でも、外国人を相手に水商売を必要とされている少女たちとも知り合いました。彼女たちはエイズウイルス(HIV)やほかの病気になる前に、今で

タイ語を話せるようになるまで、同じ10代でも、外国人を相手に水商売を必要とされている少女たちとも知り合いました。彼女たちはエイズウイルス(HIV)やほかの病気になる前に、今で



健康について描いた絵を日本語で説明する研修生と、指導する岡山大学の近藤麻理准教授(香川県綾川町のオイスカ四国研修センターで、伊ヶ崎忍撮影)

現場だからこそ、「茶のみ話」をするような日常の感覚を持ち込むことも必要なのかもしれません。ただ、感謝され、恐縮した経験が私にもあります。(小倉いづみ)

私は市民に、「日本人のあなたがここに来たということは、コソボで起きていることを日本人も知っていること」と、何度も尋ねられました。普通の市民が支援に行くことの大きな意味を感じました。

最近、中国の学生で、医療従事者をめざす学生たちがHIVの予防と看護ケアを教えるための豊富な経験を持つタイの看護士らから「学んで」を他の国に広げなければ、やはりバチがあたると思うのです。

◆宿題への投稿や、「ことば力養成講座」へのご質問は、〒530・8211 朝日新聞大阪本社教育班へ。ファックス(06・6201・3958)、メール(o-syakai2@asahi.com)。住所、氏名、電話番号を。掲載分は電子メディアに収録します。

みなさんの「宿題」、次週紹介します

「宿題」患者や被災者など、「援助を受ける側」になつたときに体験したうれしかったことを嫌だったことを500字程度で書いてください。